

令和5年（令和4年度）決算審査特別委員会における質疑応答要旨（令和5年11月13日）

（立憲民・入江委員）

令和4年度において、43の市町村・一部事務組合に1億2千百五十万円を交付したと記載があるが、予算額や申請状況はどうだったのか。

（消防課長 室田 泰彦）

令和4年度の主な補助内容としては、救急車、消防団車両、資機材となっております。

予算の確保については、前年度に市町村の要望を調査し、それに対応できる予算の確保に努めているところです。

最終予算額としては1億4千5百万円、事業数としては218事業で、要望のあった事業すべてに補助金を交付したところです。

（立憲民・入江委員）

消防庁が3年ごとに実施している消防施設整備計画実態調査の令和4年度調査結果が出ているが、県内消防本部における消防車両等の整備状況についてはどうか。特に救急車については、高齢化への対応だけでなく、新型コロナウイルス感染症拡大時においてもニーズが高まっているが、整備状況はどうか。

（消防課長 室田 泰彦）

主なものとして、消防ポンプ自動車は95.6%、はしご自動車は90.6%、化学消防自動車が91.8%の充足率であり、更新整備が多くなっております。

また、救急車の充足率は96.2%であり、前回の調査と比較すると、台数にして6台、率にして1.8%の増加となっております。

（立憲民・入江委員）

財政規模の小さい自治体及び消防本部においては、基準を満たした整備ができていない場合があると思うが、そのような中での令和5年度の取組状況、市町村への働きかけはどうか。

（消防課長 室田 泰彦）

令和5年度は44団体228事業に対し、1億4千6百万円を交付決定しているところであり、市町村への働きかけとしては、6月、10月に追加要望調査を実施し、補助金の活用を促しているところです。

（要望）

引き続き、県内自治体及び消防本部における消防防災体制の強化に向けて、必要な予算を確保し、補助金制度を有効活用して整備を進めていただきたい。

(立千民・入江委員)

印旛地域における消防広域化の取組状況はどうか。

(消防課長 室田 泰彦)

印旛地域においては、小規模消防本部が複数あり、令和3年度から関係部局長、消防長が集まった会議を継続して開催しており、昨年度は、この会議において国のアドバイザーを招いての勉強会、印旛地域の広域化のメリットなどを調査する調査委託を実施し、ワーキンググループ等で意見交換を行っているところです。

(立憲民・入江委員)

委託調査の結果はどうだったのか。

(消防課長 室田 泰彦)

印旛地域の消防の現況、将来人口の推計に基づく需要、関係する消防の組合せ7つのモデルを設定し、どの組合せでどのような効果があるのか確認したところです。

調査の結果、広域化することで、概ね、消防車両の現場到着の時間であるとか、人員に余裕が出て、スキルアップするような時間もできるといった調査結果が出ているところです。

(立憲民・入江委員)

今後はどのように取り組んでいくのか。

(消防課長 室田 泰彦)

調査結果については、印旛地域の各市町にフィードバックし、調査データに基づき内容を検討していただき、我々の方でまたヒアリング等を行い、今後、印旛地域をどういう形で広域化を進めていくか、引き続き研究していきたいと考えております。

(要望)

印旛地域の広域化の状況は、地元選出の議員に逐次情報共有をしていただきたい。